

地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
「地域産学官社会連携」分科会
活動報告
(FY2019 – 2021)

2022年3月

経営企画部 持続可能な社会推進室
平川祥子

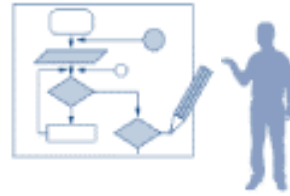


科学技術振興機構

科学技術振興機構(JST)について

文部科学省傘下の国立研究開発法人で、国の科学技術基本計画の中核的な実施機関です。

1 未来を共創する
研究開発戦略を立てる



2 知を創造し
経済・社会的価値へ
転換する

研究開発の推進



人材・知・資金の
好循環システムの構築



国際化の推進



情報基盤の強化



3 社会との対話を推進し
人材を育成する

対話・協働



次世代人材の
育成



イノベーションの
創出に資する
人材の育成



Miraikan

SCIENCE AGORA

国民の生活や社会の持続的な発展に貢献することを目的に、
国内外の大学・研究機関・産業界等との緊密なパートナーシップを深め、
科学技術イノベーションを先導

「地域産学官社会連携分科会」 (2019年3月設置) について

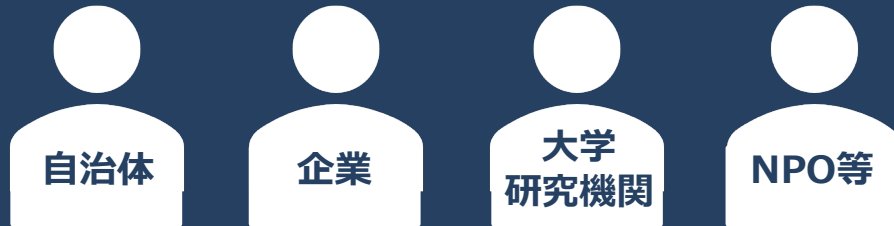
設置の目的：地域における科学技術を活用したSDGs課題解決の推進に向け、事例を共有し、大学・研究機関と地方自治体、企業（主に中小）のネットワーク構築の場をつくる。

SDGs×地域×科学技術

活動①：産学官社会の多様な方が集う会合
分科会メンバー間会合 or 分科会と連携した地域公開会合

活動②：支援制度やイベント等の情報共有
SDGs関連の支援制度、イベント、事例等を月2-3回配信

活動③：展示会等を通じた取組発信
Webや国内内外の展示会で情報発信



地域産学官社会連携分科会
(ネットワーク構築、マッチングの場)

申請・応募等

 **SOLVE for SDGs**
SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

 共創の場
形成支援プログラム
COI-NEXT

 “STI for SDGs”
アワード
‘STI for SDGs’
AWARD

 SCIENCE AGORA
サイエンスアゴラ
連携企画

 未来社会デザイン
オープンプラットフォーム
CHALLENGE driveN Convergence Engine: CHANCE

 社会課題の解決を目指して
SCENARIO

SATREPS
地球規模課題対応
国際科学技術協力プログラム

A-STEP
研究成果展開支援
プログラム
JST MIRAI 未来社会創造事業

地域の課題解決事例の形成を後押し

参加メンバー機関

SDGs、地域、科学技術、課題解決、事例共有をキーワードに集まった

37機関 (2022年2月時点)

- 自治体 7
- 企業等 21
- 大学等 9

技術シーズを持っているかは問わず、多様な産学官社会のメンバーが参加



3年間の分科会活動の概要



産学官社会が集う
公開会合

5回 (5都県)



展示会への出展

3回

総ブース訪問者数 約9200人※
※オンライン視聴者3675人含む



メンバー会合

3回



展示会での
連携企画開催数

セミナー形式

展示形式

34回

18企画



SDGs情報メールの配信

65回※

※2020.4~2022.2



報告書の発行

1回

分科会WS 「わたしのまちのスマートモビリティ2030」



2020年6月、京都大学主催の「第2回超SDGsシンポジウム」の一企画として、分科会ワークショップを「わたしのまちのスマートモビリティ2030」をテーマに開催。行政、研究者、企業、金融機関、学生等が登壇し、地域のモビリティの課題、課題解決のための技術や取組、取組支援制度についてピッチ形式で紹介。また地域視点で未来の交通や移動を考える上での障壁についてパネル討論を実施。

総合司会 科学技術振興機構 平川 祥子

第1部 13:00- インブットーク

地域の社会課題やまちづくり政策、課題解決に貢献しうる技術シーズや取組み、課題解決を応援する仕組みについてのピッチトーク

- 京都市 副知事 山下晃正(シニアオフィサー)
文化学術研究都市推進課 未来都市創造担当課長 島田和希
- 京都市 都市計画局 歩くまち京都推進室 モビリティ・イノベーション創出課長 山田 真
- 池田市 総合政策部 政策企画課 主幹 野野 純子
- 京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 准教授 シュ・マッカー・ヤンデンヤク
- 大阪大学 大学院工学研究科 地球総合工学専攻 専攻後期課程3年 粟 健人
- 株式会社Memo 代表取締役 大津 真人
- 名古屋大学 未来社会創造機構 知能化・システム統合研究部門 特任教授 手嶋 茂晴
- 京阪バス株式会社 ICT推進部 兼 交通企画室 主任 大久保 留明
- 一般社団法人システム科学研究所 調査研究部 部長 東 徹
- 株式会社テムブック 中央研究所 所長 清水 昌樹
- scheme verge株式会社 Regional Coordination Director 須田 美太郎
- 滋賀銀行 CSR室 室長 山本 真也
- HICA関西 市民参加協力課長/関西SDGsプラットフォーム事務局 加藤 健
- アフスソーシャルインベストメント株式会社 営業部 増田 翔太
- 科学技術振興機構(JST) 経営企画部 持続可能な社会推進室 主幹 平川 祥子

第2部 14:40- パネルディスカッション

導入トーク

「SDGsの視点から考えるとは？」

JST 経営企画部 持続可能な社会推進室 室長 山田 浩吉

ショートトーク

「自動運転車による日本の通勤改革」

同志社大学 政策学部 4回 和田 葵、小崎 薫

ショートトーク

「山間地域の交通における不便性改善のための取組み(仮)」

京都大学 農学部 4回 山口 真広

パネルディスカッション

「まちの移動をSDGsの視点から考える

「わたしのまちのスマートモビリティ(持続可能な交通/移動)を作るために私たちができること」

パネリスト： シュ・マッカー・ヤンデンヤク、手嶋 茂晴、大久保 留明、東 徹、須田 美太郎

ファシリテーター： JST「科学と社会」推進部 部長 荒川 敦史

開会挨拶 JST 理事 真光 正人

Sli.doで発言してみよう!

ワークショップでは発表者と参加者、会場全体のインタラクションを促進するために、Sli.doを活用します!

分科会WS「プラスチックスマート：プラスチック問題から見るSDGs」



東北大学開催「東北から『持続可能で心豊かな社会』を創造するーサイエンスアゴラ in 仙台2019&東北大学SDGsシンポジウム」の一企画として、分科会ワークショップ「プラスチックスマート：プラスチック問題から見るSDGs」を開催。プラスチック問題について、研究者、企業、NPO、学生、行政等(離島、小島嶼開発途上国)が登壇し、取り組み紹介、各セクターの役割を考えるパネルディスカッションを実施。

セッション3

JST・東北大学共催：JST地域産学官社会連携分科会 ワークショップ

- 15:00 **プラスチックスマート：プラスチック問題から見るSDGs**
東北大学 プラスチックスマート戦略のための超域学際研究拠点キックオフ
- 15:10 **東北大学の取組(拠点の説明)** 環境科学研究科 教授 松八重一代
- 15:20 **研究の最前線**
「動脈産業と静脈産業をつなぐプラスチックリサイクル」
環境科学研究科 教授 吉岡 敏明
- 15:40 **研究の最前線**
「廃プラ問題と国際資源循環：持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて」
国際文化研究科 教授 劉 庭秀
- 16:00 **「プロスポーツにおけるプラスチックスマート」**
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 山形 裕昭氏
- 16:10 **「若者からみたプラスチックスマートと、若者たちによる実践」**
環境系学生サークル海辺のたからもの代表 東北大学2年 品山 神悟
- 16:20 **「沖永良部島における海洋漂着物の対応」**
鹿児島県沖永良部島(和泊町・知名町) 和泊町役場企画課 課長 皆吉 泰智氏
知名町役場企画課 課長 高風勝一郎氏
- 16:30 **「消費文明の終着点キリバス・SIDSから」(ビデオメッセージ)**
一般社団法人日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ氏
- 16:40 **質疑応答**
- 17:00 **総合討論 パネルディスカッション**
「社会課題の解決に向けた自治体、大学、企業の役割を考える」
ファシリテーター：JST 登壇者：
環境科学研究科 教授 松八重一代
環境科学研究科 教授 吉岡 敏明
国際文化研究科 教授 劉 庭秀
宮城大学 副学長・事業構想学群長 教授 風見 正三氏
アイ・コンポジー系 取締役 小出 秀樹氏
和泊町役場企画課 課長 皆吉 泰智氏
知名町役場企画課 課長 高風勝一郎氏
- 18:00 **閉会挨拶** 国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部 部長 荒川 敦史
※終了後、懇親会(会場：桜1)を行います。

岩手県WS「暮らし×遊び×イノベーション」で連携



- 第1部 13:00~14:00 「暮らし、遊びの未来像を考えよう」
- 第2部 14:00~15:10 「未来像と現在の壁を考えよう」
- 第3部 15:10~17:00 「科学技術カードを用いて未来像を実現しよう」

分科会メンバーである岩手県が「暮らし×遊び×イノベーション」ワークショップを開催。JSTも連携し、科学技術による地域課題解決事例について講演や事例展示で紹介。ワークショップでは、参加者が理想とする未来の岩手の地域像と現在の岩手県のギャップを埋めるべく、様々な科学技術を活用し未来像実現ストーリーをグループワーク形式で作成。

暮らし×遊び×イノベーション ワークショップ

2020年
2月22日(土) 13:00~17:00

会場 紫波町情報交流館市民交流ステージ
(岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-2-3)

定員 30名(参加無料) 事前申込が必要となります。【締切2月21日(金)】
参加費は別途をご案内いたします。

2030年の私たちの暮らし、遊びはどんなになっていくのか。
それを実現するにはどうしたらいいのか。
皆さんと一緒に未来の暮らし、遊びを考えるワークショップです。
前半に皆さんと未来像を考えます。
後半では科学技術カードを使って、未来像を実現しましょう。



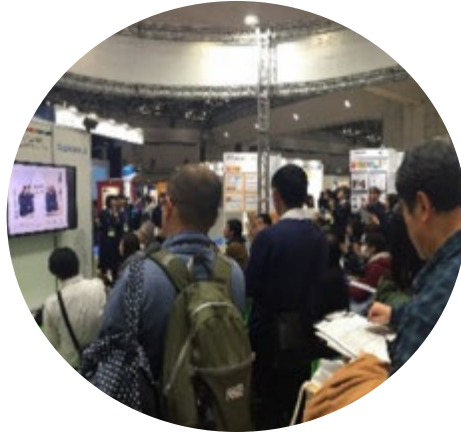
SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

本ワークショップは、内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム 地域産学官社連携分科会の活動の一環として開催いたします。

◆主催：岩手県 後援：国立研究開発法人科学技術振興機構、INS SDGs研究会

◆問合せ先
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1
岩手県盛岡市盛岡 科学・情報館 5階
電話 盛岡・加藤 Tel: 019-629-5252 E-mail: A00008@pref.iwate.jp

「みんなが生きたい未来をつくるサイエンス」



「エコプロ2019」に「みんなが生きたい未来をつくるサイエンス」をテーマにブースを出展。分科会メンバーの他、分科会ワークショップや「STI for SDGs」アワード等を通じて連携を深めたステークホルダー連携し、展示(11事例)とミニセミナー/ワークショップ(35企画)を実施。持続可能な社会に向けた、科学技術分野や教育分野の取組など幅広い取り組みを紹介。



エコプロOnline2020 JSTオンラインブース出展で連携

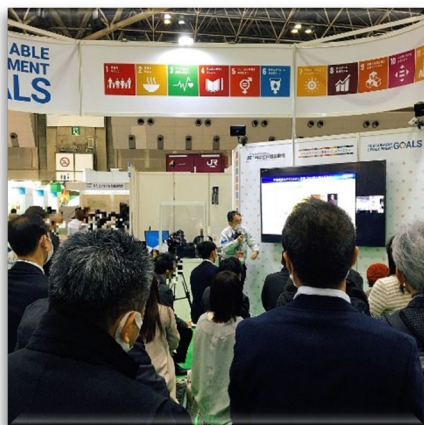


- **エコプロ**：来場者数約15万人を誇るアジア最大級の環境分野の総合展示会。
- JSTは2019年に初出展し、JSTブースには3日間で3700人が来場
- 初オンライン開催となった「エコプロOnline2020」において、**地域産学官社会連携分科会**メンバー、**「STI for SDGs」アワード受賞団体**、JST等の「STI for SDGs」活動・成果をPR。実践ツール・取組のweb掲載（11コンテンツ）、**オンラインセミナー18回開催**。
- **トップページ訪問数:3,221（重複なし）**（11月25日~12月25日）、
- セミナーに関する**チャンネル視聴回数：2098回** ※13セミナー分、**ユニーク視聴者数：918人**（11月25日~12月2日）

2021年12月開催

エコプロ2021ブース出展

「みんなが生きたい未来をつくるサイエンス」



「エコプロ2021」に「みんなが生きたい未来をつくるサイエンス」をテーマにブースを出展。分科会メンバーの他、「STI for SDGs」アワードやJST事業等を通じた協力者と連携し、展示(6事例)とミニセミナー(16企画)を実施。



パネル展示とプレゼンテーション(ライブ配信あり)を行います。
体験コーナーもあるので、ぜひお立ち寄り下さい。

「SDGsについて、わかりやすく説明します!」

SDGsとは、2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」のことです。2030年のSDGs達成期限までの間に、私たちどのような形・方法で「持続可能な社会」を実現していけば良いでしょうか。こちらのコーナーでは、SDGsのポイント、科学技術とSDGsの関わりについて、ご紹介いたします。みんなが生きたい未来について、ともに考えましょう。



(JST 経営企画部 持続可能な社会推進課)

「STI for SDGs」アワード

「STI for SDGs」アワードは、科学技術を活用して社会課題解決を目指す国内の優れた取り組みを表彰する制度です。表彰した取り組みを他の地域の方にも活用してもらうことで、SDGs達成へ貢献することを目指しています。ブース内では、今年受賞した4件の取り組みをご紹介します。畜産や食、自然、農業、土木、宇宙とさまざまな分野での活動があります。一部はブース内でのミニセミナーでもご説明しますので、ぜひお立ち寄り下さい。



(JST「科学と社会」推進部・未来共創課)

「光科学と持続可能性科学の融合が実現する廃プラリサイクル」

コロナ禍により使い捨て容器増加、海洋汚染など地球規模の環境問題として注目されている廃プラスチックを資源としてリサイクルするには、プラスチックを素材ごとに分別することが必要です。JST-STARTプロジェクトにおいて芝浦工大、東北大、静岡大は見えない光(光のようにまっすぐ進む電波)を使うことで廃プラスチックを高い精度で素材ごとに選り分ける装置を開発するとともに、世界中に普及・活用していくことをめざしています。



(芝浦工大 環境デザイン研究室)

「レスキューロボットの研究開発」

災害時の人命救助のためのロボットを開発しています。とても危険で人間が行けない場所での救助、人間の能力を超える作業の実施、救助の迅速化・効率化がレスキューロボットによる支援の目的です。瓦礫内を探索するヘビ型ロボット「駆動スコープカメラ」、空気を消火ホースロボット「ドラゴン・ファイヤーファイター」、救助犬をロボット技術で高度化する「サイバー救助犬」、EUとの共同で研究開発している瓦礫内探知小型ロボット「SMURF」をポスター掲示します。(注: 詳細はGeo-Scope(東北大 地理研究室))



「来るだろう未来」から「つくりたい未来」へ

あなたは、未来はどんな風になってほしいですか?どんな社会になったら幸せですか?私たちに教えて下さい!このブースでは、私たちがまとめた「2050年の未来の姿」を紹介する冊子をお配りしています。私たちは、科学と社会について話し合う会をいろんなテーマで開催してきました。その会に参加した人たちが語った未来の姿をピックアップしてまとめました。絵と小説で表現しています。あなたが科学者と一緒につくりたい未来は、どんな未来ですか?



(JST「科学と社会」推進部・未来共創課)

「私たちと地球のつながりが見える Geo-Scope」

日本科学未来館の常設展示Geo-Scope(ジオ・スコープ)は、過去・現在・未来の地球の姿をさまざまな視点から映し出します。目で見て楽しみながらデータを読み解くことで、私たちと地球のつながりが見えてきます。現在当館では、教員の皆さんとともに、授業の開発・実践をしています。学校の授業や教育施設での環境学習ワークショップの開発に興味を持たれましたら、ぜひ日本科学未来館のブースへお越し下さい。



(日本科学未来館)

プレゼンテーションでは、リサイクル、エンカ消費、省エネ、健康長寿、宇宙ゴミ、防災、ロボット開発活動など、幅広い話題について紹介します。詳細は、ブース内のプログラムボード及びウェブサイトよりご覧下さい。

<https://www.jst.go.jp/sdgs/events/20211208-10.html>



分科会メンバーへのアンケートから見えてきたもの

地域産学官社会連携分科会に参加する自治体、大学、企業などの皆さんに、SDGsに取り組む思い、取り組み始めてからの気づきや意識の変化について聞いてみました。



分科会やプラットフォームへ参加してどんな変化がありましたか？



SDGs 推進に関して、他のチームのさまざまな考え方を参考にすることができた (企業)

企業や他の行政機関等の情報が得られることも大事であるが、発信の機会をいただくことで連携の幅が広がる。(自治体)

大学の関与の影響の大きさと自治体の積極的な参加が大きな波へと変わっていくことを実感している。(大学)

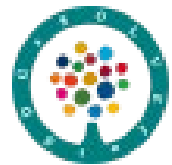
他機関の現状や取り組みについて知ることができ、民間企業の方の発想は普段気が付かないことが多いので、今後の業務改善などの参考とするようになった。(大学)

取り組むことの意義を強く感じられるようになった。(企業)

他組織の取り組みを勉強できたり、国内の動向を把握できたりするという点で参加の意義は大きい。(大学)



地域課題の解決に向けて



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム



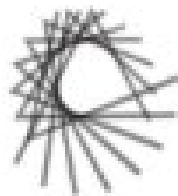
COI-NEXT

共創の場形成支援プログラム



'STI for SDGs' AWARD

"STI for SDGs"アワード



SCIENCE AGORA

サイエンスアゴラ連携企画



ご清聴ありがとうございました



科学技術振興機構